

8 北鎌倉地域 地域別方針

目標における網掛け部分  と具体的な取り組みにおける太字部分は平成16年度に追加・修正した部分です。
また★印は重点的に取り組む内容です。



まちづくりの基本的考え方

- まち並みに、古都らしさを活かし、住民が誇りの持てるまちをつくる。
- 自然を大切な資産として後世に伝え、清浄な空気など快適な環境の中を安心して歩けるまちにしていく。
- 国際観光都市鎌倉の入り口として、観光客と住民が共に生きるまちをめざす。

目標

目標①

古都としてのまち並みの保全・創造と、住みやすい環境づくり

★

①鎌倉街道（雪ノ下大船線）については、歴史的・文化的遺産を活かしたまち並みと新しい顔を創造していくまち並みが調和し、連続性を持ったまちにしていく

②観光都市として、質の高い情報提供やごみのない美しいまちづくりをめざす

③住宅地の良好な環境を保全するとともに、安全で住みやすいまちにしていく

具体的な取り組み

- 北鎌倉駅から八幡宮側は、住環境と調和した観光型商業地の形成
- 北鎌倉駅から八幡宮側は、都市景観条例・景観法などを適用し、歴史的都市にふさわしい沿道景観の形成
- 北鎌倉駅から大船側は、生活商業地の形成
- 北鎌倉駅から大船側は、生活商業地にふさわしいまち並み景観のルールづくりの検討
- 古都の環境に調和した駅舎及び駅前の改善
- 有料トイレ、拠点回収型のごみ集積所などの整備や観光案内施設のサービス、サイン計画の充実
- 谷戸や丘陵の戸建中心の低層住宅地は、緑化の推進を中心とした良好な住環境の保全
- 駅以北の住宅地は、緑化の推進を中心とした良好な住環境の育成
- 道路や下水道などの生活基盤施設の整備
- ★地域の防災拠点の整備（観光案内施設を兼ねる）

目標②

台峯の緑や河川などの自然環境の保全と活用

①台峯をはじめ、周囲に残された山林の緑を保全していく

②河川環境の向上や多様な水資源の活用など、適正な水循環の維持向上を総合的に進める

③自然に親しむ場をつくる

- 古都保存法による緑の保全
- 自然的な公園としての緑の保全活用（台峯）
- 小規模な樹林地や宅地の緑など身近な緑の保全・育成
- ★明月川、西瓜川、小袋谷川などの河川の自然回復と環境保全・親水化（古都の風情に馴染む）
- 下水道整備の推進
- 雨水利用や特に災害時などの井戸水利用の推進
- 透水性舗装の推進
- 自然観察路などの整備
- 親水空間の確保
- ハイキングコースの充実

目標③

生活と観光を支える交通環境づくり

①古都の環境と市民の生活を守るため自動車利用を抑制する交通需要管理計画を検討・実施していくとともに、周辺環境との調和に配慮して、道路の改善や必要な施設整備を進める

②歩きやすい道づくり、バスサービスの充実などにより、高齢者や障害者など誰もが便利に安心して移動できるようにしていく

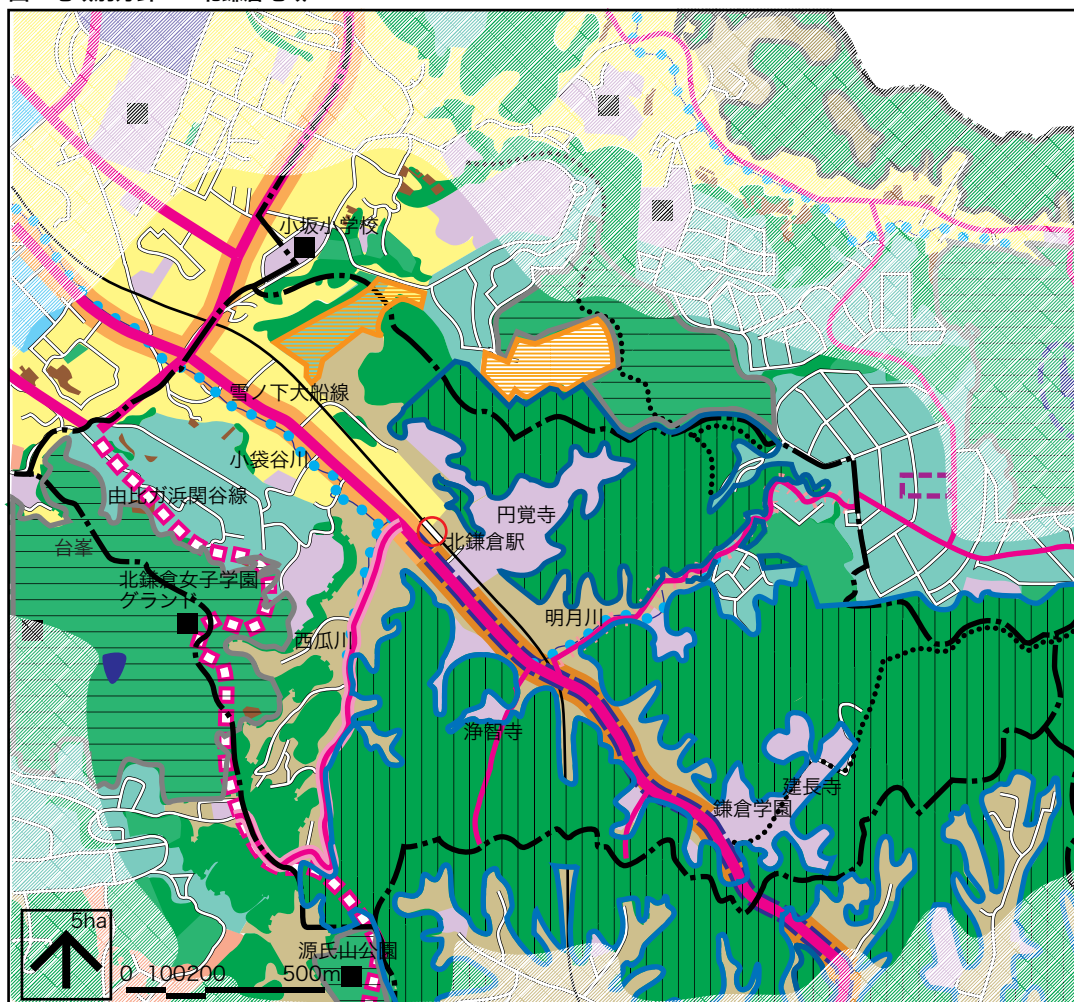
③瓜ヶ谷、明月院道路は、生活道路として、安全で緑豊かな道づくりを進める

④住宅地内の道路を、誰もが安全で気持ち良く歩けるようにしていく

- 鎌倉街道（雪ノ下大船線）の交通需要管理の検討実施
- 由比ガ浜関谷線の再検討※
- ★鎌倉街道（雪ノ下大船線）で、沿道建物のセットバック、都市計画道路の幅員の見直しなどにより高齢者や障害者にも歩きやすい道づくり、歩道づくりを推進
- 高齢者や障害者など誰もが便利に安心して移動できるバスサービスの充実
- 石畳、ハンプ、カラー舗装などによる車のスピード制限
- 瓜ヶ谷道路の緑豊かな道づくりの推進
- 幅員の狭い道路の整備手法の地域内ルールの検討
- 幅員の狭い道路の整備
- 路地のある環境やまち並みの保全

※由比ガ浜関谷線は交通体系整備の観点からは必要だと考えていますが、今後は市民意見や環境に配慮した整備手法などを考慮しながら再検討を行っていきます。

図 地域別方針……北鎌倉地域



- | | | | |
|--|-------------------------------------|--|--------------------------|
| | 古都保存法による緑の保全 | | 地域間を結ぶ主要道路の整備・改善 |
| | 身近な緑の保全 | | 由比ガ浜関谷線の再検討 |
| | 自然的公園としての緑の保全活用 | | 生活道路の環境改善 |
| | 都市公園等の緑の保全・創出 | | 瓜ヶ谷道路の沿道緑化 |
| | 河川の自然回復と環境保全・親水化
(小袋谷川、明月川、西瓜川等) | | 沿道のまち並み形成・緑の充実 |
| | 谷戸の低層住宅地の環境保全 | | ハイキングコースの充実 |
| | 一般住宅地における良好な住環境の育成 | | 地域の交通拠点における交通施設の充実(北鎌倉駅) |
| | 計画的に開発された住環境の保全 | | 地域の防災やコミュニティ拠点の整備 |
| | 地区計画による住環境の保全 | | 生産緑地地区 |
| | 生活型商業地の育成 | | |
| | 住環境と調和した観光型商業地の育成 | | |
| | 公共公益施設等(開放・緑化等) | | |

1. 地域の特徴

- 古都鎌倉の風情と佇まいを持っており、北鎌倉駅から鎌倉八幡宮に向かう鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）の両側を緑地が取り囲み、その緑を背景に寺院と戸建て住宅が点在しています。東京方面から訪れる人々にとって、古都鎌倉の玄関口と言える地域です。
- 北鎌倉駅から大船方面に向かう鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）沿いには、古くからの商店が点在しています。

2. 主な動向と取り組み

地域別の方針（本編 158 ページ）に掲げる 3 つの目標についての主な動向と取り組みは次のとおりです。

目標 ①

古都としてのまち並みの保全・創造と、住みやすい環境づくり

- 北鎌倉駅から大船方面に向かう鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）において、低層の建物が中高層共同住宅に転用されるなど、まち並みに変化が見られます。
- 台亀井地区で地区計画を策定し（3.3ha、H15.4）、住民協定が山ノ内西瓜ヶ谷団地自治会で締結されました（H12.2）。

目標 ②

台峯の緑や河川などの自然環境の保全と活用

- 台峯の緑地については、鎌倉市山崎台土地区画整理組合設立準備委員会と市の間で保全に向けた基本的方向性がまとまりました。

目標 ③

生活と観光を支える交通環境づくり

- 鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）は、小袋谷交差点（T 字路）と JR 横須賀線の踏切がネックとなり、交通渋滞が休日を中心に発生しています。

3. 重点的に取り組む内容

古都としてのまち並みの保全や歩行者の安全確保のため、鎌倉街道の景観形成、交通環境の改善や古都の風情にふさわしい河川の整備が必要です。

重点

1) 鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）の景観形成

- 古都鎌倉の風情を強く残す、北鎌倉駅から鶴岡八幡宮までの景観を維持するための施策の強化を検討します。
- 北鎌倉駅から大船方面に向かう鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）周辺における建築物については、周辺の景観などに配慮した建物となるよう適切な誘導を図ります。

重点

2) 鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）の交通環境の改善

- 鎌倉街道（県道雪ノ下大船線）の歩行者環境を改善するための見直しを検討します。
- 鎌倉街道の渋滞を解消するために、休日における渋滞の現状を把握した上で、小袋谷から関谷にかけての都市計画道路の整備を検討します（都市計画道路由比ガ浜関谷線のあり方を含める）。

重点

3) 古都の風情にふさわしい河川の整備

- 明月川、西瓜川、小袋谷川などの小河川は、治水を優先させた整備のみならず、今後は古都の風情を残した周囲の風景に合わせた護岸の整備及び河川周辺の整備についても検討します。

重点

4) 観光・防災拠点としての公共施設の整備

- 公共施設が少ない地域であることから、観光客及び市民の利便を図るため、観光案内所や休憩施設の機能を備えた観光拠点の整備について検討します。また災害発生時の避難場所及び救援活動の拠点としての機能も備えた施設整備について検討します。

ソフト面の取り組み

- 市民による緑地の保全運動（トラスト、山林の管理協力）の推進

検討課題

- 横須賀線（明月院踏切～小袋谷踏切）の地下化とそれに伴う上部空間の土地利用の検討